

令和 5 年
12 月 8 日（金）



盛岡市地域福祉ワークショップだより【全域版「ワールド・カフェ」】

NEWS LETTER

発行
地方創生いわて
事業協同組合
（委託元）
盛岡市地域福祉課

12/2(土) 市民による意見交換会 「ワールド・カフェ」開催

盛岡市では、12/2(土)に盛岡タカヤアリーナにおいて、市民による意見交換会を開催しました。

このワークショップは、地域福祉に関して、日頃感じていることやアイデアなどを、ワールド・カフェ形式で、気軽に楽しく語り合う場として企画しました。

いただいたご意見や思いは、盛岡市の福祉の方向性を定める、令和 7 年度を始期とした「第 3 期盛岡市地域福祉計画」の策定のための基礎資料として活用します。

当日は、盛岡市立高等学校の生徒も参加し、高校生から 80 代の方まで、幅広く参加頂き、16 のグループに分かれて、参加者 54 名がおしゃべりしました。

【当日のタイムスケジュール】

13:30	■オープニング ・市地域福祉課長の挨拶で開会し、内館茂盛岡市長からのビデオメッセージがありました。
13:35	■ミニ講演 ・「地域福祉計画策定における当事者の関わり的重要性」というテーマでの講演がありました。 ・講師は、岩手県立大学社会福祉学部 宮城好郎教授です。
13:55	■第 1 ラウンド 「ワールド・カフェ」のすすめ方についての説明の後、1 回目のおしゃべりがスタートしました。 ・1 つのテーブルに 4～5 名の少人数で、語り合いました。 ・テーマは、「普段、安心して暮らせていると感じていること、不安なこと」について。 ・各テーブルには、カフェ・マスターがいて、進行をサポートしました。
14:20	■第 2 ラウンド 各テーブル、カフェ・マスターを残して、参加者は、一人ずつ別のテーブルに移動します。 ・新しいメンバーで、更におしゃべりをしました。 ・テーマは、「安心して暮らせるまち」について。 ・最後に、語り合った中からキーワードを 2 つ選び出しました。
14:45	■クロージング ・本日の全ての話し合いを終えて、講師の宮城教授よりひと言講評を頂きました。 ・市地域福祉課長の挨拶のあとで、全体写真撮影を行い、閉会となりました。



▲語り合いを終えて～集合写真

内館茂盛岡市長ビデオメッセージより（一部抜粋）



そういった、皆さんお一人お一人の思いを、たくさん存分に語りつくしていただければと思っています。

盛岡の地域の福祉がこうなつたらいいな。住みたいまちにするには、私はこうしてみたいんだと、そういった、みなさんお一人おひとりの思いを、たくさん、存分に語りつくして頂ければ、そう思っています。みなさまから頂いた思いの一つひとつを受け止めて、大切な宝であるその思いを、計画策定に活かしていきたい、そう思っております。本日の「ワールド・カフェ」が、実りあるものとなるように、そして、みなさんが、活発に議論ができますよう、祈念致しまして、私のあいさつとさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願い致します。

ミニ講演「地域福祉計画策定における当事者の関わり的重要性」

講師：岩手県立大学社会福祉学部 宮城好郎教授

§. 「福祉（ふくし）」とは「**ふ**だんの、**く**らしの、**し**あわせ」、「計画」とは、基本理念を実現するための「設計図」

- ・「福祉」とは、普段通りの、いつもの暮らしの幸せを創っていくこと。
- ・「幸せ」とは、簡単に言うと、当たり前に、やりたいことが自由にやれること。選択できる、自由があるということが大事。
- ・「計画」とは、基本理念を実現するための「設計図」。基本理念は、人間に例えると背骨であり、計画を推進するために、一本筋を通して、哲学ということ。
- ・地域福祉においては、前提として、地域社会をよく知ること、そこで暮らしている人は、お互いを知るということが大事。

§. 「地域福祉計画」という器に魂を入れるために、地域住民が自分事として主体的に計画づくりに関わるのが重要

- ・多様な当事者が関与すれば、計画にその状況や意向が反映され、理念を具現化することにつながる。

§. 「インナー・ダイバーシティ」—自分の中の多様性を獲得することが「ワールド・カフェ」の意義ではないか

- ・「多様性」という時に大事なものは、その属性が多様であるということだけではなく、自分の知が多様化されなければならない。
- ・自分の知が多様化するためには、地域学習が欠かせない。自分の持っている既存の知と、他者の持っている知を結合させることで、新しい発想や視点が生み出され、自分の頭の中が多様化していく。

各グループから出されたキーワードやフレーズ

●人との関わり・コミュニティ

- ・声かけが活発なまち
- ・コミュニティの場所
- ・人との関わり、声をかけ合う機会
- ・多様な人が参加できる、多様な地域の受け皿
- ・繋がり（地域、老人ホーム等）思いやりがある、話ができる
- ・活発なコミュニケーション

・コミュニケーション、若者が暮らしたい街

●安心な暮らし

- ・障がいがあっても安心して生活できるまちになってほしい
- ・助けてと言えるまち

●相互理解と施策（福祉体制）

- ・多世代に優しいまち
- ・福祉体制（特に障がい者への）理解、設備、施策

●盛岡市の魅力・楽しめる場

- ・面白みのある、違いのある街
- ・都市中心部、お店や遊べる場所の充実
- ・楽しめる場所を、もっと増やしてほしい
- ・若者が住み続けたいまちに！！
- ・世界 2 位の、中核都市としての魅力
- ・転出しても、盛岡に戻ってきたい

●道路・交通

- ・道路の整備が行き届いているまち
- ・交通手段
- ・都市中心部、交通便の改善（雪でも大丈夫！）
- ・バス
- ・交通バリアフリー、誰でも安心して移動ができるためのバリアフリー化を知る機会

●その他いろいろ

- ・人口減少を見すえて考える
- ・世代間の思いこみ
- ・生活の基盤を担う人
- ・あきらめない気持ち
- ・企画、行動
- ・住民と病院を繋ぐ仕組みづくり
- ・医療が豊富な町

アンケート結果より 参加した方々からの感想

- ・進めてくださるスタッフの方が、優しくゆつくりと話をされ、なごやかに話をすることができました。話をするというよりも、おしゃべりする感じでよかった。
- ・こういうやり方のグループセッションが初めてだったこと。若い人とグループになったことで、自分にはない視点ももてた。
- ・高校生や大学生がこのような機会に参加している姿を見て、これからの盛岡の未来に期待を持ちました。
- ・色んな人たちの話が聞けて、とても楽しかったです。また、このような機会があったら参加したい！
- ・高校生の参加があったのは、本人達のためばかりでなく、高齢の私達にも楽しいものがあった。いろいろな意見もためになりました。

カフェ・マスターからひとこと！印象に残ったこと

- ・幅広い年代、立場の方々が集まっているため、様々な視点からの意見が聞けて、7 圏域で開催したワークショップよりもクローズアップした話を聞くことができて勉強になりました。
- ・人口減少問題に対して、高校生の関心が見られた。
- ・地域のつながりを大切にしたい気持ち、あきらめない気持ちを持つ方がいる限り、まちは強くなれる。
- ・頼れる人がいるから、安心は一応あるが、地域への愛着をもって「転出しても盛岡に戻ってきたいか」が、今回の地域福祉に限らず、盛岡をよりよくするための重要かつ永遠の課題だと気づきました。地域の方々と沢山お話しできて、初参加でしたがとても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・わきあいあいとした雰囲気、皆さんのリアルな心の内をさくことができ、貴重な機会になりました。課題だけでなく、こういう取り組みでやってるよね、など、ポジティブな意見で、視野が広がりました。